

令和6年度周南市こども育成支援対策審議会(第7期第5回)会議録

日 時	令和 6 年 10 月 4 日 (金) 13 時 00 分～14 時 30 分
場 所	周南市徳山保健センター 1 階 健診ホール
議 事	議題 1. 調査報告 ・ 周南市子どもの生活状況調査 ・ 周南市子どもと若者の生活・意識に関するアンケート調査 2. 周南市こども計画の骨子（案）について ・ 周南市こども計画の全体構成 ・ 基本理念 ・ 計画の体系
出席者	● 委員 13 名 ※会議成立（欠席：山本委員） 竹下会長、兼重副会長、金子委員、木村委員、田中委員、秋重委員、大嶋委員、河村委員、大野委員、加村委員、小林委員、合田委員、溝渕委員 ● 事務局 11 名 こども未来部 福谷部長 あんしん子育て推進課：柿並課長、柏村課長補佐、国廣課長補佐、高木係長 子育て給付課：浴井課長 こども保育課：林課長（こども未来部次長）、清水課長補佐、松村課長補佐 生涯学習課：上野課長 学校教育課：稲垣課長 ● 業務受託事業者：一般財団法人山口経済研究所、株式会社サーベイリサーチセンター

議題 1. 調査報告

- ・ 周南市子どもの生活状況調査
- ・ 周南市子どもと若者の生活・意識に関するアンケート調査

資料

周南市子どもの生活状況調査報告書

周南市子どもと若者の生活・意識に関するアンケート調査報告書

◎会長 議題の件について、事務局から説明をお願いします。

□事務局 あんしん子育て推進課、サーベイリサーチセンター

	資料に基づき、上記２件の調査結果について説明。
◎会長	「周南市子どもの生活状況調査報告書」については、今回の質問及び回答をすべて掲載しているのか。
□事務局	サーベイリサーチセンター 本日提示した報告書は、一部の質問と回答を抜粋した概要版である。全体版の報告書については作成中であり、完成次第提示する。
◎会長	「周南市子どもの生活状況調査報告書」の子ども票問 19 の質問文について、「あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。」という文言になっている。「相談している人」ではなく「相談できると思う人」という表現にした意図はどのようなものか。 ちなみに、全国レベルの同様の調査では、相談相手として先生を選んでいるのが１割程度だが、今回の調査では４割近くが回答している。相談したいと思ってもできないケースがあるものと考えられるが、今回敢えて、質問文を「相談できると思う人」にしたのはなぜか。
□事務局	サーベイリサーチセンター 「相談できると思う人」がどれだけいるのかという、現状把握に重きを置くため、今回のような表現となった。実際には相談できないケースがあることは認識している。
議題２．こども計画の骨子（案）について ・周南市こども計画の全体構成 ・基本理念 ・計画の体系	
資料 1 周南市こども計画の骨子（案） 資料 2 こども計画基本理念の検討 資料 3 「周南市こども計画」骨子の検討用シート 資料 4 周南市こども計画の体系について	
◎会長	議題のうち、こども計画の全体構成と基本理念について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	あんしん子育て推進課 資料 1 及び 2 に基づき、周南市こども計画の骨子（案）のうち、全体構成と基本理念について説明。基本理念に関しては、事務局案として

	「すべてのこどもが夢と希望をもって未来をつくる こどもまんなか しゅうなん」を提示。
○委員	基本理念の「夢」や「希望」「未来」といった言葉を聞いて、ワクワクする気持ちになった。ハンディキャップのあるこどもや貧困家庭のこどもも、夢や希望をあきらめることなく行動できると思う。こどもたちの成長が市の成長につながるという趣旨も良いと思う。
○委員	「こどもまんなか しゅうなん」という形で、すべてひらがな表記としているので、当事者であるこどもに伝わりやすい。また、ハンディキャップの有無等に関係なく、すべてのこどもたちが生活しやすい環境をつくっていくとの意図が伝わった。こどもたちが未来をつくるという趣旨も良いと思う。
◎会長	今回提示のあった基本理念には、こどもを真ん中に据えるという考えが明確に表れており、こどもと市がともに未来をつくっていくという趣旨も共感できる。
○委員	「夢と希望をもって未来をつくる」という部分には、変化をしていくという意味合いが含まれていると思う。こどもたちのために市が変化していくと捉えられ、非常に期待できる。
○委員	基本理念については、丁寧に考えられている印象があり、とても良いと思う。特に、「こどもが未来をつくる」という点が素晴らしい。
◎会長	基本理念に関しては、委員会としては賛成ということで良いか。
○委員	委員一同了承
◎会長	それでは、基本理念について委員会としては賛成とする。 次に、計画の体系について事務局から説明をお願いします。
□事務局	<u>あんしん子育て推進課</u> 資料４に基づき、周南市こども計画の骨子（案）のうち、計画の体系について説明。
◎会長	体系の全体像については、委員の皆様から質問がないので、理解されたものと認識している。 具体的な施策の展開に関する審議にあたり提案させていただきたい。委員の皆様の活動は幅広く、地域によって実情も異なると思う。また、今回のこども計画は、市全体でこども施策を幅広く展開するための総合計画である。これらの点を踏まえ、皆様が普段こどもや若者、子育て世帯と接する中で感じることを、当事者として大切にしていることをできるだけ計画に反映したい。従って本日は、施策について細かくみていくというよりも、こどもや子育て世帯への思い、市の施策でこれは大事だと感じられたエピソード、活動の中で見えてきた課題、活動

	のしにくさなど、皆様から自由な意見を出していただきたい。細かい意見は計画の素案が示された段階でお願いしたい。
○委員	保育士不足の対策を盛り込んでほしい。放課後子供教室や児童クラブでは保育士の免許がなくても活動できる。保育の現場でも、補助という形で数時間でも対応してもらえる人材が確保できれば、保育の質の向上につながる。 また、母子保健推進員が家庭を訪問しても会えないケースが多い。母子保健推進員は家庭の異変に最初に気づく存在であることから、各家庭にアプローチしやすい方法を自分も考えていきたい。
○委員	発達支援の問題に関して、サポートが必要なこどもが特段の相談なく、実際の状況を隠して幼稚園に入園するケースがあり、結果として先生が対応に忙殺される形となっている。こうしたこどもを包括的にサポートする専門的な施設をつくれぬか検討してほしい。 また、今後予定されている中学校の部活動の地域移行に伴い、民間のスポーツクラブ等の活動が行われていない地域では、移行後の送迎や費用面がネックとなり、活動に参加できない生徒が増える懸念がある。機会均等が実現するよう取り組んでほしい。 地域活動に関わる人の中には、1人で多くの活動を掛け持ちで行っている人が多い。特定の人に負担が偏らないよう、地域で支え合う仕組みが望まれる。 なお、県と市町が共同で、第2子以降の3歳未満児の保育料無償化を実施するが、家庭では第1子、第2子といった区別はないので、すべてのこどもにサービスが行き渡るようにしてほしい。
○委員	こどもと地域の大人や大学生が交流するイベントの開催が望まれる。こうしたイベントにより、保護者は地域コミュニティとの関係が深まるほか、こどもにとって、大人と関わることは将来の成長に役立つ。 なお、今回の計画に参考となる事例として、東京都の「とうきょう子育てスイッチ」という情報サイト、広島県の「広島県子供議会」、島根県川本町の「まげな一フリーパス」（公共施設や温泉等の料金が割引になる、こども向けパスポート）が挙げられる。
○委員	基本目標Ⅱの体系で示している「妊娠・出産・子育てに寄り添う切れ目のない支援の充実」の「切れ目のない」というのはとても良いと思う。 また、基本目標Ⅲの「困難を抱える子育て家庭への支援」については、不登校の児童・生徒でも夢にチャレンジできるようにしていく点で基本理念にかなっている。

	それから、基本目標Ⅳにおける「子育ての担い手の育成とネットワークの強化」の多職種連携については、何かあった時だけでなく日頃の連携強化が重要である。 なお、「困難を抱える子育て家庭への支援」のうち貧困対策については、こども食堂の活用が重要で、マップ等による視覚情報の提供を充実させる必要がある。
○委員	市の支援策は充実しているが、問題はいかに PR するかである。特に、県外に住んでいる子育て世代に周南市を選んでもらうための PR が必要である。極端に言えば、県外から子育て世代の移住者を呼び込んだ人に報償金を提供するくらいの取り組みが必要かもしれない。
○委員	中山間地域に住んでいると、こどもを見かけない日が多く、今後どのように活動していくべきか悩ましい。 現在、「ママカフェ」という形で母親の支援を行っている。皆さんの話を聞くと、こどもが小さい時の支援は充実しているが、大きくなった時の支援が十分でないとの意見が多い。例えば中学生は部活動等にお金がかかり、保護者が生活に不安を抱えている。こうした面での支援も強化してほしい。 今回の計画を実行することにより、周南市で暮らすこどもたちが、将来本市でこどもを産んで生活したいと思うようなまちになればと思う。
○委員	コロナ禍の前にこども向けの人権教育を行った際、大人は大変そう、大人になりたくないという声が多く聞かれた。大人を見て子どもは育つので、大人が夢と希望を持って生きていくことが必要である。1日に1回は大人が笑顔を見せてほしい。
◎会長	大人が笑顔を見せて前を向いて生きるべきという点は、その通りだと思う。 韓国で少子化が進んでいる要因として、若者の将来の子育てに対する負担・不安の大きさが指摘されている。周南市の場合、施策は充実していると思うので、それらを伝えていく際、現役の子育て世帯だけを対象にするのではなく、こども・若者への発信が重要である。
○委員	第2子以降の保育料無償化が実施されるのはありがたい。 また、周南公立大学が保育協会とも連携しながら、イベントを開催するなど子育て支援に積極的に関わっており、この点も良いと思う。公立化の効果だといえる。
◎会長	委員の皆さんから活発な意見をいただいた。これらについては、事務局において今後の計画づくりに反映していただきたい。

□事務局	<u>あんしん子育て推進課</u> 骨子案については、取扱に留意していただき、一読の上、意見があれば電話やメール、もしくは配布した資料３の記入シートを用いてお示しいただきたい。 今後、計画の素案がまとまった段階で、次回審議会の前に委員の皆様へ送付し、ご意見をいただきたいと思う。 また、「こどもまんなかシンポジウム」というイベントを１１月に開催するので、是非とも積極的な参加やＰＲをお願いしたい。
◎会長	他に意見がなければ、本日の審議を終了する。